

サツキ新品種「紀文の華」「晃雲」「碧」及び アザレオデンドロン「茜雲」について

赤羽勝・高島大典・中枝健・山中昭雄

I 緒 言

サツキは我国の本州中部以西に自生するツツジ科ツツジ属植物の一種で、サツキツツジ (*Rhododendrom indicum* SWEET) を省略した呼称であるが、園芸上は近縁種のマルバサツキ (*R. eriocarpum* NAKAI) を包含し、それらの交雑品種も多い。サツキの園芸化はキリシマツツジなどととも17世紀後半から18世紀初期(元禄一享保年代)の園芸発達期にさかのぼるが、今日では大衆的趣味園芸として全国に広く普及している。本県のサツキ生産は大正時代(1913~26)に始まり民間育種家による新品種の育成と、鹿沼土を用土とした苗木生産によって全国的に知られるようになったが、とくに近年はその苗木生産が農業経営に導入され、鹿沼市を中心とした地域の産業として発展しつつある。

鹿沼分場では1963年から鹿沼土の農業的利用による花木苗生産団地の育成に寄与する目的で、サツキを中心としたツツジ類の新品種育成を実施してきた。それらの成果の一部は既に報告したが、1972年までに選抜した有望系統のなかから4系統を命名し、1973年から原苗を配布するにいたったので、その育成経過と特性について報告する。なお、これらの品種名は場内職員から候補名を募集し、横川信夫知事が決定した。

以上の4品種を育成するに当って、宇都宮大学森谷憲教授、東京農業大学阿部定夫教授、野菜試験場田村輝夫久留米支場長の各位からご指導を戴き、農業技術研究所河合武室長には放射

線照射の労をわずらわし、その後の処理についてもご指導を戴いた。前栃木県さ月会会長宇賀神富作氏、栃木県さ月会理事栗橋渉氏、同理事大久保広三氏の各位には供試材料の分譲と助言を戴いた。ここに記して感謝の意を表する。

II 育成経過並びに特性

1 紀文の華(きぶんのはな)

1) 系統番号: 6316-1

2) 育成経過

花色のよい紋り底白で樹勢が強いはち花向き品種を育成する目的で、1963年にサツキ紀美の華(花色のよい紋り底白であるが樹勢が弱い)に、文化(樹勢強い単色底白)を交配し、1964年春にこの種子をまき、苗箱で養成した。1966年露地床、1967年には露地ほ場に栽植して選抜を行った。本品種は1968年に第1次予選(主に花色・花型)、1969年に第2次予選(耐寒性など)を経てはち栽培に移し、栄養系統についてさらに特性を調査し、1972年に紀文の華と命名した。

3) 特性の概要

開花期は両親品種より早く、5月20日前後から始まり、サツキ品種としては早咲きである。花色は淡紅色の地色に濃紅色の伊達紋り(大~小、濃淡の混合した紋り)や白紋りがはいる底白性で、底白のぬけ方はよい方である。花型は一重丸弁の中輪(6~7cm)でよく整っている。葉は長た円形または倒披針形の並葉で、大きさは中位、表面に光沢がある。分枝は細く密生し

て横に張り、樹は伏性を示す。一般に絞り底白の品種は樹勢が弱い、この紀文の華はかなり強く栽培が容易である。耐寒性も強く寒冷地以外では露地栽培が可能である。なお、本品種には単色花の枝変りがでやすいので、さし穂を採取するときには注意が必要である。早咲きで花色がはでやかなことから、はち花または花物盆栽に向く。

命名は花色が両親品種の間であることから、親品種の文字を組合せたものである。

2 晃 雲(こううん)

1) 系統番号: 64115-12

2) 育成経過

樹勢が強く単色花のにくい絞り底白品種を育成する目的で、1964年にサツキ稚児姿(単色底白)に、雲月(単色花のにくい絞り咲き)を交配し、1965年には(播種)、1966年に露地床、1967年に露地は場に栽植して選抜を行った。

本品種は1970年に耐寒性、花色などについて予選を行い、はち栽培に移した後、さらに特性調査をして1972年に新品種として決定した。

3) 特性の概要

開花期は6月上旬で雲月と同時期、稚児姿よりは約1旬遅れる。花色は地色が美しい純白で、紫を帯びた紅色の小絞りや、たて(縦)絞り(細長い太筋の絞り)が多く、絞り模様は花心の方ほど淡くなる底白性である。花色は全体に白勝ちで、単色の底白花や覆輪花は少ない。花型はよく整った丸弁で花弁は5枚、大きさは中輪(6.5~7cm)。花筒がやや長く花心に奥行きがある。葉は倒披針形の並葉で光沢がある。分枝はやや太めで短かく密生し、横に張って樹は伏性を示す。樹勢、耐寒性とも雲月と同様に強く、栽培しやすい。単色花の枝変りが発生しにくいので未開花の若木からさし穂を採ることができ、大量生産に適する。花色、花型、分枝性などからみて盆栽またははち花に適する。

命名は樹全体を覆って咲いた花に、小さくはいる絞り模様が、初夏の積乱雲に陽光がきらめく様子をおもわせることによった。

3 碧(コバルト)

1) 系統番号: 高砂Mu-1

第1表 紀文の華、晃雲、碧とその親品種の特性比較

品 種 名	開 花 期	花 色			花 型	樹 分枝 型 密度	樹 勢	耐 寒 性	葉 型
		地 色	絞 り	底 白					
紀 文 の 華	5月下旬	淡 紅 色	濃紅色 大~小	有	中輪丸弁	伏 密	強	やや強	並 葉
(親)紀美の華	6月上旬	白 色	濃紅色 大~小	有	中輪丸弁	伏 密	弱	弱	並 葉
(親)文 化	5月下旬	淡 桃 色	紅紫色 大~小	有	中輪並弁	伏 密	やや強	やや強	並 葉
晃 雲	6月上旬	白 色	紅紫色 中~小	有	中輪丸弁	伏 密	強	強	並 葉
(親)稚児姿	5月下旬	濃 紅 色	紅紫色 大~小	有	大 輪 波 打	中 粗	強	強	大の丸葉
(親)雲 月	6月上旬	白 色	と き 紅 小	無	大輪細弁	伏 密	強	強	細 葉
碧	6月中旬	淡紅紫色	紅紫色 大~小	無	小輪並弁	伏 密	強	強	や や 小 丸葉
(親)高 砂	6月中旬	やや濃い 紅 紫 色	紅紫色 大~小	無	中 輪 波 打	中 やや粗	強	強	並の丸葉

2) 育成経過

サツキには芽条変異によってできた品種が少なくないが、それらの多くは易変因子による花色の変異や周縁キメラによるもので、それ以外の可視的因子突然変異のひん度は低いとみられる。そのため放射線照射による突然変異の誘発について検討し、現在までに枝変り7系統を育成した。本品種はその一系統で、1964年7月にマルバサツキ系の品種・高砂のさし穂に⁶⁰Coのγ線を照射(全線量5KR, 線量率3.47R/min.)し、1965年7月に切戻しを行った。1967年の開花期調査で、枝変りであることを認め、栄養系統について特性調査をして1972年に新品種として碧と命名した。

3) 特性の概要

開花期は6月中旬で高砂と変わらず、サツキ品種のなかでは晩生の方である。花色は高砂に似て淡紅紫色の地色に濃紅紫色の絞りで白絞りははいる。高砂よりは地色が淡い。花型は高砂より小輪で、高砂の特徴である花卉の波打ちがなくやや細い普通弁、葉もやや小さく、光沢のある丸葉となった。分枝の太さは変わらないが、高砂のように徒長せず密生する。高砂よりわい性で、花に軟かいふん囲気があり、枝も密生するので

盆栽に向き、樹勢が高砂と同様に強く、耐寒性も強いので庭木にも適する。

命名は放射線源の⁶⁰Coにちなんだ。

4 茜雲(あかねぐも)

1) 系統番号: 6445-1

2) 育成経過

サツキにアズマシャクナゲの花型、花色と、厚く光沢のある革質な葉の形質などを取入れ、しかも葉を小さく、樹型もサツキ程度のわい性にする目的で、1964年にサツキ13品種を母にアズマシャクナゲの貯蔵花粉を交配した。そのうち4品種で雑種系統を得た。これらの雑種実生は、いずれも白子やふ入りが混生し、初期生育が悪かったが、「紅傘」を母本とした系統には生育のよい雑種個体があり、育種目標よりは花が大きく色彩もサツキに近かったが、有望と思われる1個体を選抜し、栄養系品種とした。

3) 特性の概要

開花期は5月上旬(無加温室)で両親のほぼ中間、花色は紫を帯びた紅色の単色無地で、心紋(ブロッチ)は暗紅色、花型は母親の紅傘よりやや小さいが、それに似た一重大輪(7.5~9.8cm)の丸弁で、花卉数は5枚のものが多く、4、6枚のものも

第2表 茜雲及び親品種の特性比較

種または 品 種 名	開花期 月 日	花 色	花 型	花 径 cm	雄しべ 本数(本)	花 糸 の 色	花 柱 の 色	一花房 着花数	葉の大きさ	
									長さ cm	幅 cm
茜 雲	5. 4	帯 紫 濃紅色	一重5(4~ 6)弁	7.5~ 9.0	10 (8~9)	淡紅色	淡紅色	1 4	5.0	2.0
アズマシャ クナゲ	4.1 6	淡紫紅 色底白	一重5弁筒咲	4.5	10	白	白	4(2 ~3)	9.0	3.0
サツキ紅傘	5.2 5	朱紅色	一重4~6弁	10.0~ 11.0	5~8	朱紅色	朱紅色	1~2	4.0	1.6

注. 葉型 茜雲: 倒披針形~長だ円形, アズマシャクナゲ: 倒披針形, 紅傘: 倒披針形~長だ円形

ある。雄ずいはシャクナゲに似て10本のものが多いが、8~9本のものもあり、花糸は太く淡紅色、新芽はシャクナゲに似た白色毛がある。葉型は両親の中間で、夏葉はやや薄い、冬葉はサツキに似た形により厚く革質。葉裏にはシャクナゲのようなかっ色毛がある。分枝はサツキより太く、シャクナゲに似て枝打ちが粗いが徒長せず、樹型がよくまとまりわい性である。分枝の発生はサツキにおよばないが、比較的によく側枝が発生し、さし木の活着もよい。屋外越冬の可否については調査していないが、無加温室で十分越冬する。繁殖、栽培はサツキに準じてよい。用途ははち花または盆栽向きとして有望である。

命名は花色と花型が夕陽にはえる雲をおもわせることにちなんだ。

III 摘 要

1. 1963年からサツキを中心としたツツジ類の新品種育成試験を実施し、1972年までに選抜した有望系統のなかから、4栄養系統を新品種と決定し命名した。
2. 紀文の華は1963年に交配した紀美の華×文化の雑種個体群から選抜した。5月20日頃から開花する早咲きで、花色は淡紅色の伊達紋り、白紋りがはいる底白性。花型は一重の丸弁で中輪。耐寒性強く栽培しやすい。はち花または花物盆栽に向く。

3. 晃雲は1964年に交配した稚児姿×雲月の雑種個体群から選抜した。開花期は6月上旬。花色は純白の地色に紫を帯びた紅色の小紋り、たて紋りが多く、白勝ちの紋り底白で底白がよくぬける。花型は一重丸弁の中輪で、花筒がやや長く花心に奥行きがある。樹勢、耐寒性強く栽培しやすい。盆栽または、はち花に適する。

4. 碧は1964年7月にマルバサツキ系品種の高砂のさし穂に、 60°C の7線を照射して得た芽条変異系統である。開花期は6月中旬でおそ咲き。花色は高砂に似た淡紅紫色の地色に濃紅紫色の紋りで白紋りもはいる。高砂より地色が淡い。花型は高砂より小輪で花弁の波打ちが消失している。葉も小さく照葉で、分枝は徒長せず密生する。盆栽または庭木に向く。

5. 茜雲は1964年、サツキの紅傘を母にアズマシャクナゲを交配して得たアザレオデンドロンの栄養系品種である。開花期は5月上旬。花色は帯紫紅色の無地で暗紅色の心紋がある。花型は一重の大輪で1花房に2~4花着く。葉型は両親の中間で裏面にかっ色毛がある。

IV 引 用 文 献

1. 赤羽勝ほか(1971) 栃木農試研報 17 : 95~102